



近世・近代日本における書物文化環境の実態解明

人文科学系・言語文化学領域

磯部 敦

教授

ISOBE Atsushi

博士(文学)(中央大学)

■研究キーワード 書物史, 出版史, 印刷史, 製本史, 書店史, 図書館史, 蔵書形成史, メディア史, 地域史

■主な所属学会 日本出版学会, 日本近代文学会, 日本近世文学会, 日本文学協会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.7193e7fb653314b1520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

「書物」を縦軸に、「地域」を横軸にして、対象地域の書物文化環境の実態を研究しています。どのようなテキストがどのように印刷、製本され、モノとしての書物がどのように流通し、どこにどう架架され、どのような人たちが、どこで、何を、いつ、どのように入手し、そして、どのように読んだのかを歴史的かつ実証的に明らかにしようとするものです。近年では、奈良を対象地域として、奈良県全域における書物文化環境——書物や新聞、雑誌等の印刷、製本、流通、購入、貸借の環境——の実態調査をおこなっています。

「読書」とは日常あたりまえに見る風景ですが、私の研究は、その「あたりまえ」がいかにして「あたりまえ」となっていったのか、その過程に作用する力学を解明するものでもあります。



亀井勝一郎『大和古寺風物誌』諸本。おなじタイトルではあるけれど、「内容」もすべて同じであるとはかぎらない。



昭和50年代まで使用していた丁合台。京都の製本所よりの譲受史料。

研究のプロセス・研究事例

1. 地域由来の印刷物に就くこと。これが対象地域の書籍文化環境を掘り起こしていく起点となります。私の研究では、近代以降に奈良県で印刷出版された書物、雑誌、新聞、広告等に記載された刊記情報、起業時等に役所に提出した文書、紳士録や人名録などの名寄せ類を調査し、記載情報をテキストデータ化したうえで県内の各地域ごとにまとめました。『近代奈良県書物文化環境一覧』は、その成果報告書になります。

<https://researchmap.jp/a24isobe/misc/29953506>

2. 書籍文化環境の解明は、上記のような外部情報のほかに内部情報＝社内文書類もありますが、廃業等により現存が稀な史料でもあります。私の研究では、近鉄奈良駅近くで営業していた豊住書店の所蔵史料や、京都府製本工業組合の組合文書などを調査しています。これら内部文書により、外からは分からない諸工場との交渉や実費等にアプローチできます。「板木所収の心性——桂雲堂大阪支店における板木購入と明治期後印本」は、豊住書店史料を分析し、板木を大量に購入する際の心性を検討したものになります。

https://researchmap.jp/a24isobe/published_papers/47195604

3. 個人の蔵書、購書や読書の記録も貴重な書物文化環境史料です。私の研究では、五位堂出身の民俗研究者であり小児科医でもある澤田四郎作や、吉野出身の詩人・歌人である前登志夫の個人史料のほか、奈良女子高等師範学校の旧蔵書や購書記録などを調査をしています。個人や図書館のみにとどまらず、関係者や関係各所とのつながり、人的交流をととして書物文化環境の解明にアプローチしています。

「二つの〈吉野〉—前登志夫、活動初期の書簡群から」は、前と横田俊一（奈良女子大学教授）や花岡大学（吉野出身の児童文学者）らとの書簡交流をととして前の営為を検討したものになります。

https://researchmap.jp/a24isobe/published_papers/43790893